

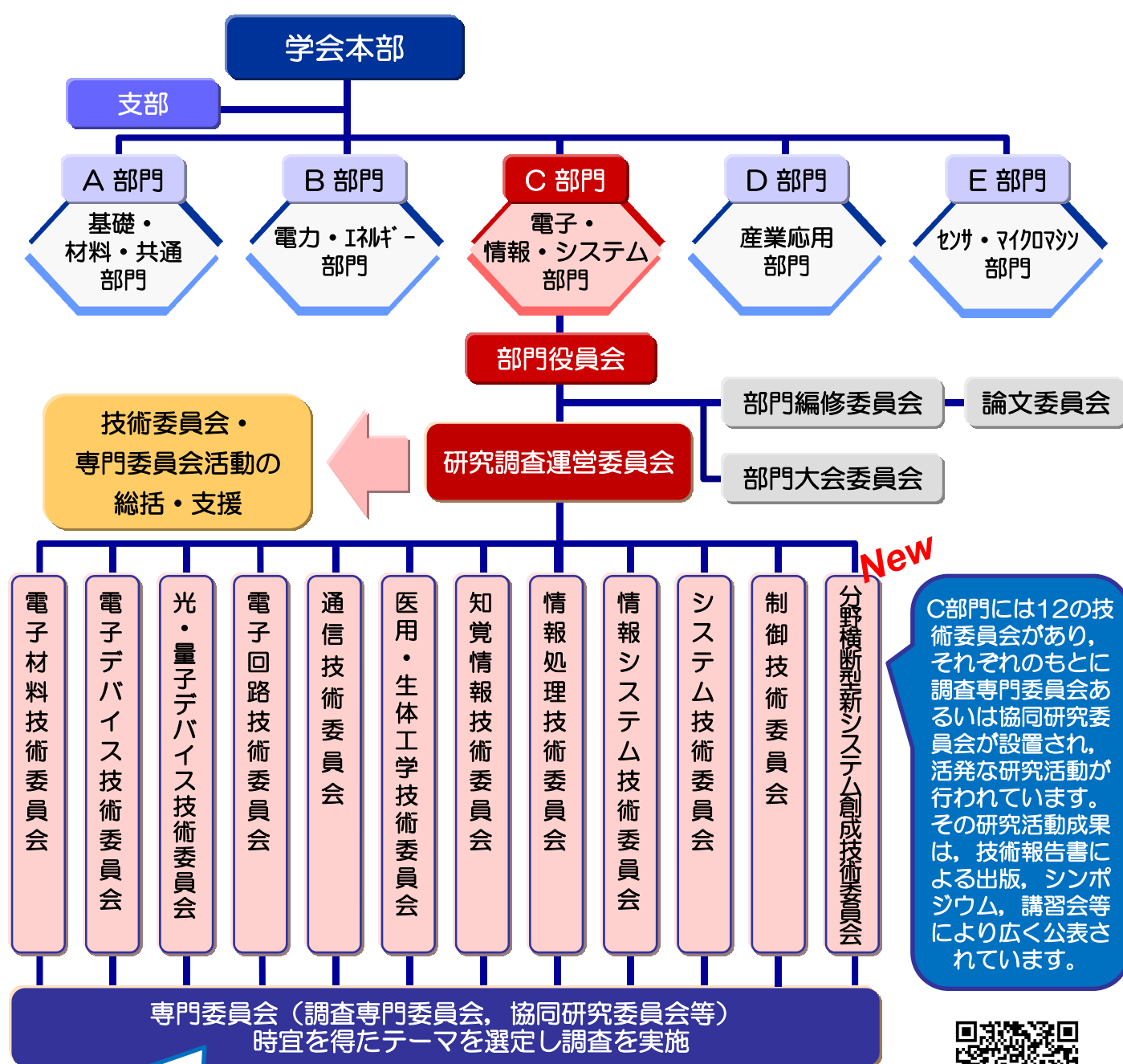
電気学会 電子・情報・システム部門 (C部門)

技術委員会のご紹介

電気学会 電子・情報・システム部門 (C部門) では、市民生活や社会経済活動の根幹をなす電子、通信、情報、制御、システムなどの以下のような技術領域を扱っており、その適用範囲の広さに加え、学際的領域も多く、技術進展が速いことなどが特徴です。

【調査・研究対象】

電子材料、電子デバイス、電子・集積回路、光・量子エレクトロニクス、生体・医用電子、電子応用、バイオニクス、通信・ネットワーク、マルチメディア、信号・画像処理、パターン認識、制御・計測、ロボティクス、ニューロ・ファジー・カオス、システム、ソフトウェア・情報処理、エレクトロニック・コマース、バーチャルリアリティ、人工知能、ソフトコンピューティング、知能・知識情報処理、人工生命&創発システム、最適化、福祉応用、環境管理、インテリジェントロボット&オートメーション



C部門には12の技術委員会があり、それぞれのもとに調査専門委員会あるいは協同研究委員会が設置され、活発な研究活動が行われています。その研究活動成果は、技術報告書による出版、シンポジウム、講習会等により広く公表されています。

情報交換・収集の場として好適です。

電気学会C部門ホームページ

<http://www.iee.jp/eiss/>



電子材料技術委員会

連絡先：sato-tatadatake@aist.go.jp

電子材料技術委員会は、電子・情報・システム部門（C部門）に属しており、下記5つの調査専門委員会・協同研究委員会を纏めています。

研究分野：有機無機フレキシブル薄膜，ナノ微粒子，レーザ材料，レーザ加工

キーワード：電子材料設計，材料加工プロセス，有機分子材料，医療，バイオ素子材料，センサー材料，複合電子材料，磁性・スピン材料，超伝導材料，ナノ材料，レーザ材料，光学材料，コーティング材料，新機能材料創成，産業用レーザ，新領域レーザ加工，電子材料評価，表面・界面評価，光物性評価，ナノ物性評価，その他関連事項

フレキシブルなエネルギー・情報
・ロボティクスデバイス関連技術に関する
調査専門委員会
(委員長: 工藤一浩(千葉大))
2016年7月～2018年6月

ナノ材料作製のための最先端レーザ
プロセッシング技術調査専門委員会
(委員長: 辻 剛志(島根大))
2016年5月～2019年4月

フレキシブルセラミックスコーティング
技術調査専門委員会
(委員長: 西川博昭(近畿大))
2018年8月～2020年7月

電子材料技術委員会

[委員長: 佐藤正健(産総研)
副委員長: 甲藤正人(宮崎大)
幹事: 篠永東吾(岡山大)]

レーザ加工条件選定プロセス検証
のための協同研究委員会
(委員長: 部谷 学(大阪産業大))
2016年4月～2019年3月

光エレクトロニクス材料技術
調査専門委員会
(委員長: 吉田 実(近畿大))
2016年7月～2019年6月

電子材料技術委員会の活動

- 年に2回の委員会，年に2回の勉強会，年に1回の見学会の開催
- 全国大会シンポジウムや部門大会公募企画セッションの開催
- 年に5回程度の研究会の開催

その他各調査専門委員会・協同研究委員会では，技術報告書の作成やC部門論文誌特集号企画などを行います。

電子デバイス技術委員会

委員長：豊田 一彦（佐賀大）

現代から近未来のエレクトロニクス社会を支える

“電子デバイス技術”と“その応用技術分野”

「次世代化合物デバイスの機能と応用」(調査)

委員長：鈴木 寿一（北陸先端大） 設置期間：2017年10月～2019年9月

- ・環境関連化合物半導体デバイス・テラヘルツ化合物半導体デバイス
- ・センシング化合物半導体デバイスおよび応用システム

「パワーデバイス・パワーIC高性能化技術」(調査)

委員長：齋藤 渉（東芝） 設置期間：2017年4月～2020年3月

- ・パワーデバイス・パワーICのデバイス・プロセス技術
- ・電力の高機能、高効率利用に向けたパワーデバイス駆動・制御技術

「ナノエレクトロニクス基盤ヘテロ集積化・応用技術」(調査)

委員長：田中 徹（東北大） 設置期間：2018年6月～2021年5月

- ・半導体ナノエレクトロニクス技術
- ・ナノエレクトロニクスと異種機能・異種材料とのヘテロ集積化技術
- ・知能化された情報環境(インフォスフィア)を指向する
ナノエレクトロニクス基盤の応用技術

「拡大する電磁波利用を支える先進的技術」(調査)

委員長：河合 正（兵庫県立大） 設置期間：2017年6月～2020年5月

- ・素子・デバイス、アンテナ／電波伝搬、EMC、材料・計測
- ・無線電力伝送、化学・エネルギー応用、医療・ヘルスケア応用

「次世代インタラクティブディスプレイ」(協同)

委員長：岩根 透（ニコン） 設置期間：2018年2月～2020年1月

- ・3D空間表示デバイス、ウェアラブルデバイス、5感センシング技術
- ・5感認識処理、3D空間認識処理、マルチモーダルコミュニケーション技術

電子デバイス技術委員会は、
4つの調査専門委員会と1つの協同研究会をまとめています。

問い合わせ先：委員会幹事 池田 圭司（東芝メモリ, keiji.ikeda@toshiba.co.jp）

光・量子デバイス技術委員会のご紹介

光・量子デバイス技術委員会は、電子・情報・システム部門（C部門）に属しており、下記5つの調査専門委員会と2つの協同研究委員会をまとめています。

- ✓量子ビームによるナノ構造形成とその医療・バイオ応用技術調査委員会
- ✓エネルギー・環境・資源問題の解決につながる革新的材料創出に向けた光・量子ビーム応用技術調査専門委員会
- ✓先端コヒーレント光源技術調査専門委員会
- ✓持続可能な社会と先端技術を支えるレーザプロセッシング技術第二期調査専門委員会
- ✓パワー光源及び応用システム調査専門委員会
- ✓バイオメディカル・フォトンクス先端技術の応用に向けた協同研究委員会
- ✓量子・情報・エレクトロニクス医療インタフェース協同研究委員会（第II期）

量子ビームによるナノ構造形成と
その医療・バイオ応用技術調査委員会
（委員長:住友弘二(兵庫県立大)）
2017年5月～2019年4月

エネルギー・環境・資源問題の
解決につながる革新的材料創出に向けた
光・量子ビーム応用技術調査専門委員会
（委員長:根岸雄一(東京理科大)）
2017年6月～2019年5月

先端コヒーレント光源
技術調査専門委員会
（委員長:小川貴代(理研)）
2017年1月～2018年12月

光・量子デバイス技術委員会 （委員長:窪寺昌一(創価大)）

パワー光源及び応用システム
調査専門委員会
（委員長:宮本智之(東工大)）
2017年10月～2019年9月

持続可能な社会と先端技術を支える
レーザプロセッシング技術第二期調査専門委員会
（委員長:中田芳樹(大阪大)）
2017年12月～2019年11月

バイオメディカル・フォトンクス
先端技術の応用に向けた協同研究委員会
（委員長:松浦祐司(東北大)）
2017年10月～2019年9月

量子・情報・エレクトロニクス医療
インタフェース協同研究委員会（第II期）
（委員長:熊谷寛(北里大)）
2018年5月～2020年4月

光・量子デバイス技術委員会の活動

- 年に4回の委員会、年に3回の勉強会、年に1回の見学会の開催
- 全国大会のシンポジウムや部門大会の企画セッションの開催
- 年に7回程度の研究会の開催

その他各調査専門委員会では、技術報告書やC部門特集論文の執筆などを行っています。

連絡先：窪寺昌一 kubodera@soka.ac.jp

電子回路技術委員会

目的

電子回路や集積回路は様々な製品で用いられ、現代の生活になくってはならない技術です。電子回路技術委員会は、社会的基盤ともいえる電子回路の解析技術や設計技術、実用化技術、さらには電子回路の設計教育などの調査・検討を通じ、これらの分野の一層の発展に寄与し、社会へ貢献します。

対象分野

集積回路を含む電子回路および、実装技術などの周辺技術を扱います。たとえば、次のようなキーワードが挙げられます。

集積回路、精密周波数発生回路、周波数・時刻伝送技術、非線形電子回路、カオス回路、ニューロン回路、エレクトロメカニカル回路デバイス、弾性表面波デバイス、圧電材料・強誘電体、MEMS、組み込みシステム、ディジタルシグナルプロセッサ、システムアーキテクチャ、モデルベースシステムエンジニアリング、システム実現支援ツール、高周波回路設計技術、超微細加工技術・設計技術、回路実装技術、三次元実装技術、パッケージング技術、雑音解析技術、電磁環境整合性、計算機援用回路設計技術、電子回路教育 など

組織構成

2018 年現在、次の調査専門委員会・研究専門委員会で構成されています。

- 電子回路研究専門委員会
- 非線形電子回路の高機能化技術調査専門委員会
- アナログ電子回路の発展的設計技術調査専門委員会
- 高周波集積回路の高機能・多様化技術調査専門委員会

- 非ノイマン型世代に求められる高機能回路実装技術調査専門委員会
- EM デバイス・システムの先端技術ならびに応用技術調査専門委員会
- 超精密周波数計測とその比較技術による回路技術調査専門委員会
- システム LSI に関連する雑音の影響を低減するための技術調査専門委員会

活動内容

電子回路に関する分野の更なる発展のため、以下の活動をしています。

- 各調査専門委員会による最新技術動向の研究・調査活動
- 電子回路研究会の開催
- シンポジウムの開催（アナログ VLSI シンポジウム、EM シンポジウム）
- 国際会議の開催（AVIC: International Conference on Analog VLSI Circuits）
- 論文誌における特集の企画
- 全国大会・部門大会におけるセッションの企画

特に電子回路研究会は1994年に電子回路研究専門委員会を組織して活性化を図り、現在は毎年継続的に100件を超える発表が行われる会となっています。シンポジウムは学術組織と産業界の間で回路技術者の交流を計り、最新技術の共有や解決すべき社会的課題を議論するために1997年より企画・開催を行なっています。

委員会ホームページ・連絡先

<https://www.ieej-ect.org/c-tc-ec/>
info@ieej-ect.org

電子回路技術委員会

電子回路研究専門委員会

電子回路研究会

アナログ VLSI
シンポジウム

International Conference on
Analog VLSI Circuits

調査専門委員会

高周波回路

EM デバイス

実装技術

精密周波数発生

非線形回路

回路設計技術

回路設計教育

雑音解析

などの重要分野を調査

EM シンポジウム

□ 専門委員会

□ 公開技術会合

通信技術委員会

通信技術委員会は、通信技術全般に関わる情報交流の場として最適です。

ぜひお気軽にお問い合わせください。<http://iee-cmn.info/>

キーワード：無線，光ファイバ，ネットワーク，マルチメディア，一般

～ 活動内容 ～

通信研究会の開催

- ◆ 下表の通り年4回の研究会を開催しており，そのうち2回は通信研究会の単独開催，他の2回は他学会と協力した開催（連催/共催）となっています。
- ◆ 他学会と協力することで，分野横断的で多様な発表プログラムが特徴です。
- ◆ 発表者はもちろん，聴講者にとっても最新の研究動向や産業界の動向を幅広く把握するのに格好の機会となっています。

開催時期	H29/6月@小樽	H29/9月@京都	H29/11月@大阪	H30/1月@久米島
発表件数	10件	17件	25件	9件
参加者 (1日あたり)	約23名	約43名	約70名	約21名
他学会との 協力状況	単独開催	■ 電子情報通信学会 ・ ライフインテリジェンスとオフィス情報システム研究会 ・ マルチメディア情報ハイディング・エンリッチメント研究会 ・ 画像工学研究会 ■ 映像情報メディア学会 ・ メディア工学研究会	■ 電子情報通信学会 ・ 光通信システム研究会 ・ 光ファイバ応用技術研究会 ■ 映像情報メディア学会 ・ 放送技術研究会	単独開催
過去の 開催場所	旭川，金沢，釧路，札幌，山形，新潟，青森，仙台，帯広，尼崎，函館，北見	愛媛，岐阜，金沢，熊本，高松，高知，山口，松山，神戸，長岡，徳島，愛知	沖縄，鬼怒川，京都，熊本，高松，松江，神戸，大阪，長岡，島根，東京，福島，由布院，長崎	宇部，沖縄，宮崎，広島，高松，高知，鹿児島，大津，長崎，鳥取，那覇，福岡，名古屋
H30年度の 開催予定	6/28,29 道特会館（札幌）	9/27,28 別府国際コンベンションセンター	11/8,9 倉敷市芸文館	未定

調査専門委員会の設置

- ◆ 通信技術委員会の下では常に1～2種類の調査専門委員会が活動しています。時宜にかなったテーマをその都度選定し，先生方や企業関係者のご協力により当該技術分野の発展・普及に寄与しています。

その他

- ◆ 部門大会では調査専門委員会のテーマなどで企画セッションを開催しています。
- ◆ C部門誌では1～2年に1回程度，通信技術の特定分野について特集号を企画しています。

これまでに設置した調査専門委員会

- H01.06-H04.03 電力用構内通信網
- H04.06-H06.06 陸上交通における移動体通信とその応用
- H05.01-H06.12 電力用通信機器イミュニティ
- H05.04-H07.03 ISDN形テレモニタリング
- H08.06-H10.06 電力用画像伝送システム
- H10.04-H12.03 公共事業におけるGPS利用技術
- H11.01-H12.12 電力におけるPHS利用状況
- H13.06-H15.05 自営無線の活用技術
- H15.10-H17.09 ブロードバンド時代のネットワーク運用管理
- H17.10-H19.09 センサネットワーク
- H19.10-H21.09 高速電力線通信（高速PLC）
- H21.10-H24.09 電力用通信機器IP化技術
- H22.10-H24.09 M2M技術
- H24.10-H26.09 第2次M2M技術
- H27.06-H30.05 高信頼・高セキュア無線通信ネットワーク

医用・生体工学技術委員会

研究分野およびキーワード

-  神経工学
-  脳情報
-  感覚情報処理
-  生体モニタリング
-  リハビリテーション
-  生活支援技術
-  福祉機器



見学会，技術会合等の紹介

-  生体医工学サマースクール2018 8/7-8,
<http://bh2018.bpe.es.osaka-u.ac.jp/>

-  BMEiCON2018 11/21-24, Chaing Mai, Thailand
<http://www.bmeicon.org/bmeicon2018/>



三浦

活動状況

特集号「生体を診る・解く・支える技術」

[http://www.iee.jp/eiss/wp-content/
uploads/eiss/cfp/cfp_2019_05_2.pdf](http://www.iee.jp/eiss/wp-content/uploads/eiss/cfp/cfp_2019_05_2.pdf)

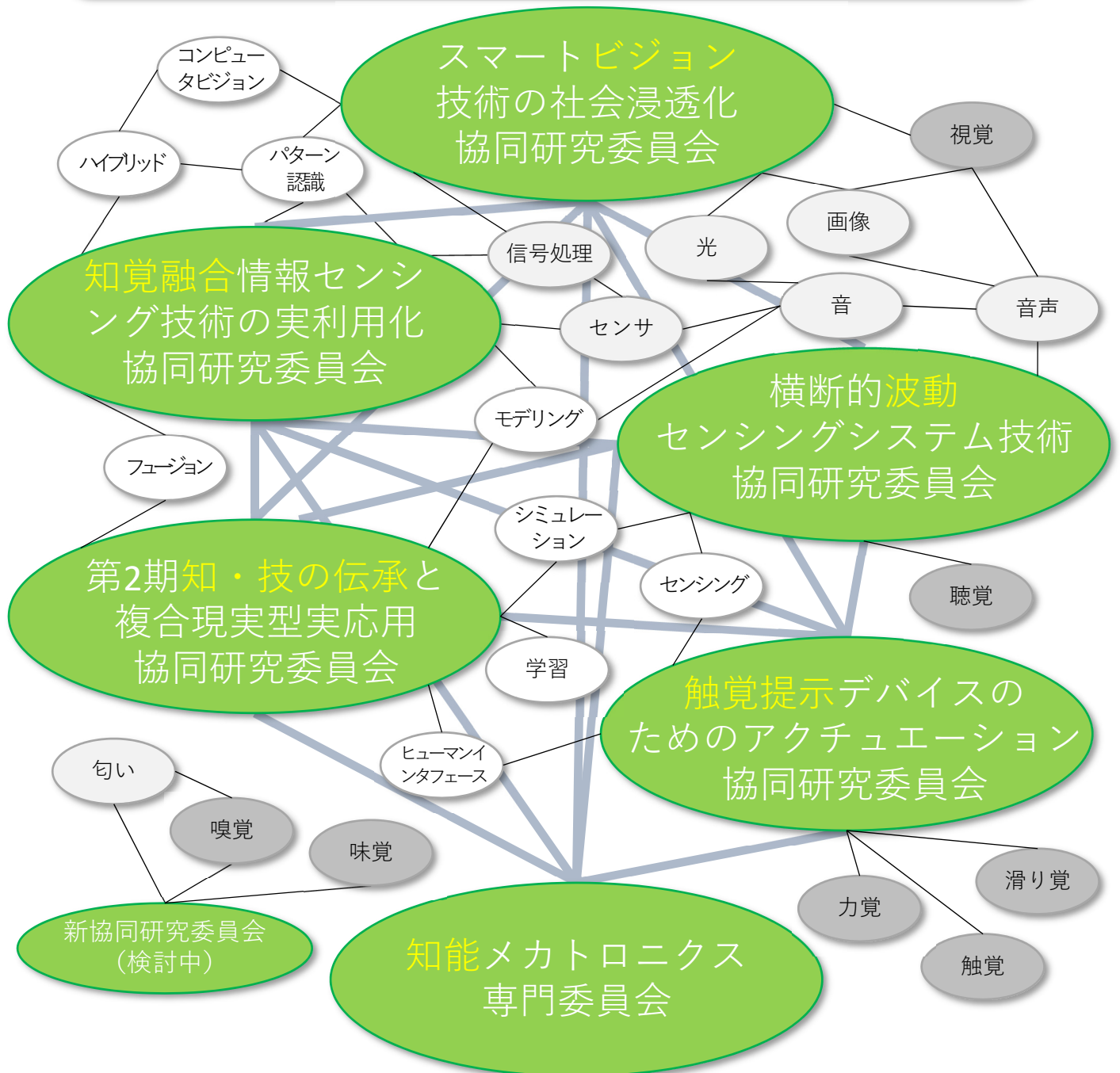


問い合わせ先

首都大学東京 大学院システムデザイン研究科 佐藤隆幸
s-takayuki@tmu.ac.jp

知覚情報技術委員会

概要：5つの知覚情報（視覚情報、聴覚情報、触覚情報、嗅覚情報、味覚情報）とその関連情報に関わる理論・技法およびこれらの実システムへの応用を中心とした知覚情報工学に関する研究調査活動。



活動：研究会，C部門大会企画セッション，C部門誌特集号，知能メカトロニクスワークショップなど

詳細・問い合わせ ⇒ <http://cpi.itlab.org/>

情報処理技術委員会

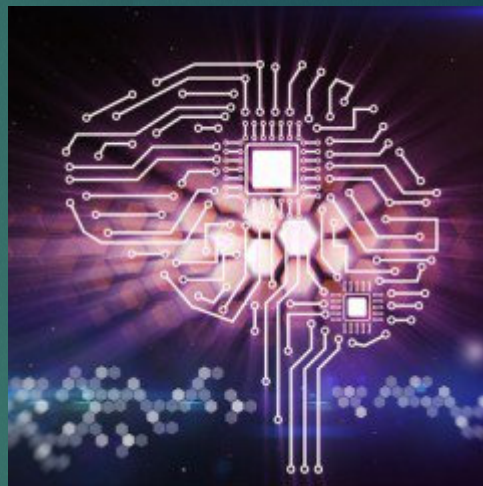
Technical committee on *information processing*

We cover information processing area, especially from the aspect of its practical application and industry-oriented theory. Recent development of IoT, big data analysis, artificial intelligence and other advanced technologies are giving significant influences to various fields. We should also consider problems, which is actually happening and will happen, in intellectual properties and in related laws and regulations as both software and hardware in industry become more intelligent. In this context our scope involves:

- ✓ Fundamentals and applications in information processing (IP)
- ✓ Software/hardware technologies for realizing IP
- ✓ Industrial applications of IP
- ✓ Novel framework of IP and its social implementation

and the keywords which actually represent our scope are the following (but are not limited to) :

- IoT, M2M, Industrie4.0, big data analysis
- Cloud computing
- Security, risk analysis
- Artificial intelligence
- Software engineering
- Environmental information processing
- Human interface
- Natural language processing
- Media information processing
- VR, AR, MR
- Affective computing
- Intellectual property, law and regulation related to information processing



Research topics of Special Interest Group running in the committee:

- ✓ Japanese model of Industrie 4.0
- ✓ Impact of data-driven processing to future society

Please email to the chairman of the committee (yoshie@waseda.jp) for any inquiries.

情報システム技術委員会

■ 情報システム技術委員会の視野:

日本における社会や産業の在り方を探りつつ、将来の情報システム像や情報技術を明らかにすることを目標としている。

社会・産業・組織の在り方 サービスサイエンス, 情報セキュリティ, リスク管理, ビジネスプロセス管理, 意思決定, 情報システム評価, など

情報システム 製造, 流通, 金融, 行政, 環境, エネルギー, 教育, 医療, 防災, 観光, 交通 などの情報システム

情報システム技術 システム構築・運用, 業務モデリング, データマイニング, 知識情報処理, シミュレーション, 最適化, IoT, クラウドコンピューティング, など

■ 基盤技術

通信技術, 新デバイス, セキュリティ技術, ロボット, など

■ 主な活動:

● 情報システム研究会 (年4回程度)

研究会優秀論文発表賞受賞論文 (例)

「MCMC法を用いた故障予測による設備点検の高度化」 (2016)

● 調査専門委員会・協同研究委員会 (現在: サービスイノベーション, セキュリティ心理学)

● C部門大会・全国大会での企画セッション

● C部門論文誌の特集提案

- ・ 人間と情報を繋ぐ情報システム (2017)
- ・ 国際会議ACIS2014/2015/2016
- ・ データからの知識発見とその応用 (2015)
- ・ ディペンダブルなサービスシステムに貢献する情報・システム技術 (2014)
- ・ 新たなサービス社会に貢献する情報・システム技術 (2013)

● 国際会議の主催・共催

Asian Conference on Information Systems (ACIS)

2017 プノンペン, 2016 クラビ,

2015 ペナン, 2014 ニャチャン,

2013 プーケット, 2012シエムリアップ

委員会WEBページ<http://www2.iee.or.jp/~cis/>



システム技術委員会

誰でも手軽に使える万人のためのシステム技術の時代の幕開けに向けて 委員長：貝原俊也(神戸大学)

研究内容 一般化・抽象化されたシステムを対象としたモデリング・シミュレーション・解析・最適化などに関わる理論・技法およびこれらの実システムへの応用を中心としたシステム工学に関する研究調査活動を行っています。なお、システム工学が学際分野であることを踏まえて、会員外からも広く専門委員会委員を積極的に募ることで、時宜を得た機動的かつ学際的な研究調査活動を実現します。

キーワード システム理論、モデリング、シミュレーション、最適化、組合せ最適化、多目的最適化、ソフトコンピューティング、メタヒューリスティクス、システム評価・解析、意思決定論、大規模システム、確率システム、離散事象システム、自律分散システム、ハイブリッドシステム、スケジューリング、ニューラルネットワーク、進化計算、ファジィ理論、適応・学習、人工知能、群知能、マルチエージェントシステム、創発システム、カオス、フラクタル、複雑系、及びこれらの応用。

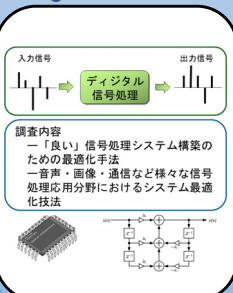
活動状況(2017年度) 研究会(10回、論文数92)、技術講演会・見学会(2回)、企画セッション(講演数30)、電気学会内外の関連団体・研究会との連携・交流、奨励賞などの積極的な若手研究者育成

これまでの技術会合 優秀論文発表会、技術講演会・見学会(電力中央研究所、電子航法研究所、統計数理研究所、三菱電機、東芝、日立製作所、富士電機、明電舎、東海大学、大阪府立大学、近畿大学など)

研究調査活動

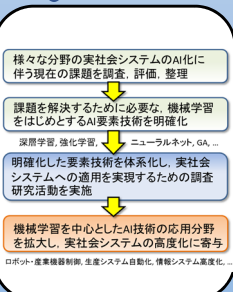
現在2つの調査専門委員会、3つの協同研究委員会が研究調査活動を行っています。

デジタル信号処理システム最適化技術調査専門委員会



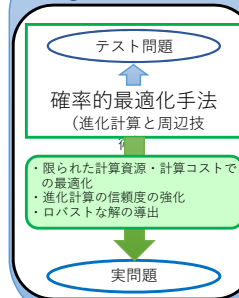
IoTに代表される近年の情報技術の急速な発達とともに、デジタル信号処理技術の重要性が増えています。デジタル信号処理は時系列データに対する変換処理と考えられるため、良い信号処理には最適な変換パラメータを選ぶ必要があります。本委員会では、デジタル信号処理に適した最適化手法について調査するとともに、音声・画像・通信など様々な応用分野における最適化手法について調査・研究を行なっています。

実社会システムの高度なAI化を目指した機械学習技術応用協同研究委員会



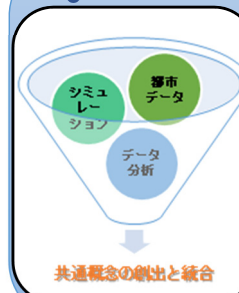
近年、実社会システムの多くは自動化が進んでおり、さらなる高度化を目指して、AI技術の導入が急速に進みつつあります。本委員会では、実社会システムの高度な知能化に伴う課題を明らかにし、機械学習を中心とした種々のAI技術の適用によってその課題を解決し、より高度な実社会システムを実現することを目的とした調査研究を行っています。

確率的最適化手法とその周辺技術の適用分野拡大に関する技術調査専門委員会



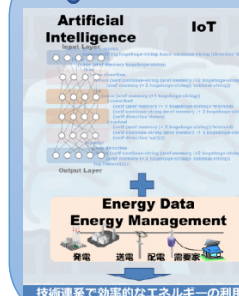
進化計算に代表される確率的最適化手法は、円熟期を迎え、より複雑かつ大規模な問題や現実的な制約の多い実問題への適用が進んでいます。本委員会では、確率的最適化手法とその周辺技術の発展と適用分野拡大に向けて、限られた計算資源や計算コスト下での最適解の効率的な導出方法の検討、進化計算から得られる最適解の精度保証の強化など、関連する様々な問題の調査研究を行っています。

都市マルチエージェント・シミュレーション統合手法検討協同研究委員会



都市の問題を解決すべく電力・交通・水道・防災減災など目的ごとにデータ収集・シミュレーション・分析が行われてきました。しかし、都市全体の現象を統一的に扱う手法はまだまだ確立されていません。本委員会では、個々の現象に対して活用されてきたデータ・シミュレーション技術・分析技術を共有し、都市全体の人の活動分析や予測に向けた統合技術の調査研究を行っています。

エネルギーデータを対象としたAI、IoT活用技術協同研究委員会



エネルギー分野とAI、IoT技術分野が連携することにより、エネルギー利用の総コストを低減することが可能となる社会システムが期待できます。そこで本委員会では(1)エネルギー分野に直接的、間接的に要求されるAI、IoT技術に対するニーズの調査、(2)エネルギー分野、AI、IoT技術それぞれに対する要求仕様と利用技術、に関して調査と体系的な整理を行っています。

Webページ・連絡先

<http://www2.iee.or.jp/~eiss/index.php>
技術報告書⇒技術委員会⇒システム技術委員会
幹事：千葉 龍介(旭川医科大学)
rchiba@asahikawa-med.ac.jp

制御技術委員会

汎用性の高い基盤技術から高機能先端技術まで
広範囲に展開される制御技術の調査研究活動の活性化
を目指し、その可能性を追求しています



調査専門委員会

制御技術委員会

委員長

水本郁朗（熊本大学）

副委員長

金子 修（電気通信大学）

幹事

脇谷 伸（広島大学）

秋山岳夫（明電舎）

幹事補佐

今井慎一（東京学芸大学）

1号委員 10名

2号委員 6名

PID制御システムの産業適用評価（調）

委員長 田中雅人（アズビル）

2015.10～2018.09

産業界で最も多く実用されているPID制御を対象とし、特に情報システムの発展と関連させて、産業適用における実用性・有効性評価について産学で検討しています。

制御工学・制御技術教育に関する（調）

委員長 川田和男（広島大学）

2015.10～2018.09

教育機関および企業を系統的にまとめることで、制御工学や制御技術教育から学ぶ指導方法および評価方法について調査研究を行っています。

人から計測した技能データの制御技術への応用と各種評価への活用（調）

委員長 逸見知弘（香川高専）

2016.10～2018.9

人の技能に基づいた、制御技術の開発・評価、技能伝承方法の確立・検証、計測・解析技術に基づいた福祉機器の評価等、幅広く調査研究を行っています。

データ駆動制御とモデルベース制御の相互強化とその応用展開（調）

委員長 金子 修（電気通信大学）

2016.10～2018.09

データ駆動制御とモデルベース制御の補完関係を解明し、両者の有機的な融合により、真に実用的な制御系設計・モデリングを展開します。

制御・信号処理の技術融合と新応用分野（調）

委員長 杉田 泰則（長岡技科大）

2017.01～2018.12

実用性の高いスマートな制御・信号処理技術の開発、ならびに制御と信号処理の融合による新たな研究分野の創設を目指します。

安全制御・故障早期診断と早期耐性設計（調）

委員長 涌井 伸二（東京農工大学）

2017.10～2019.09

安全制御・故障早期診断系設計に関する新技術の調査、解析および実用性の向上と、これらを統合した設計環境の構築を行います。

制御工学および機械学習の相互強化とその応用展開（調）

委員長 林田 智弘（広島大学）

2017.10～2020.09

制御工学と機械学習の相互強化をはかり、複雑なシステムに対する制御性能の向上を目的としたアプローチを検討しています。

人間支援システムのための情報・制御（調）

委員長 高岩 昌弘（徳島大学）

2018.04～2020.03

人間支援システムの構築に要求される情報・制御技術の開発、ならびにそれらを統合した最適な運用手法に関する研究を行います。

活動

2018年に「[スマートシステムと制御技術シンポジウム2018](#)」を開催しました！

2019年も「[スマートシステムと制御技術シンポジウム2019](#)」を開催予定です！

➤運営委員会

➤研究会の企画・開催

➤c部門大会企画セッション

➤c部門論文誌特集号企画

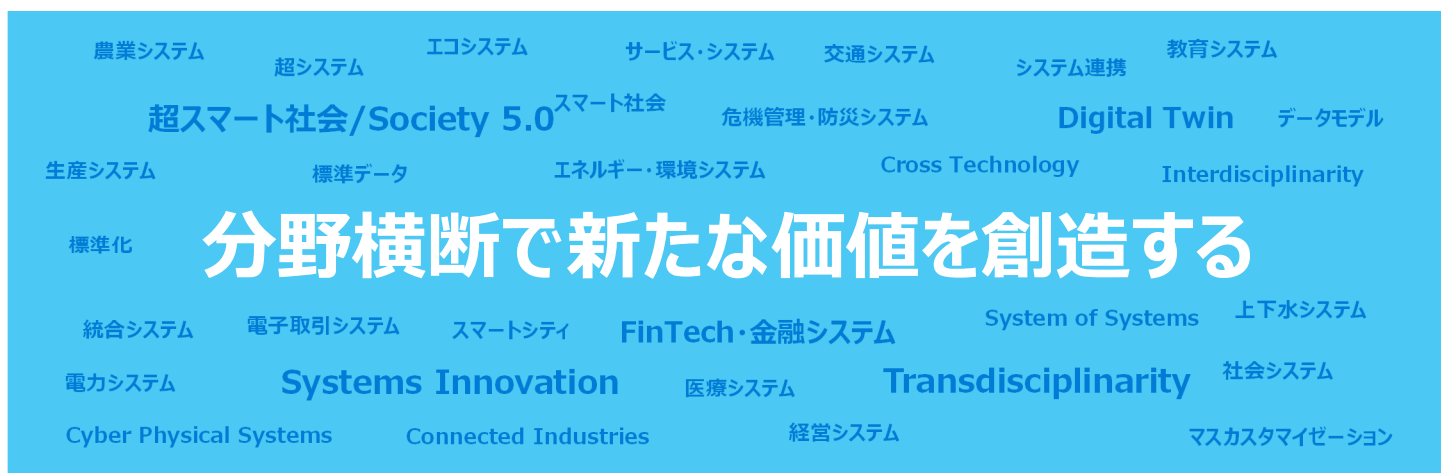
➤全国大会での企画セッション

➤シンポジウム企画提案

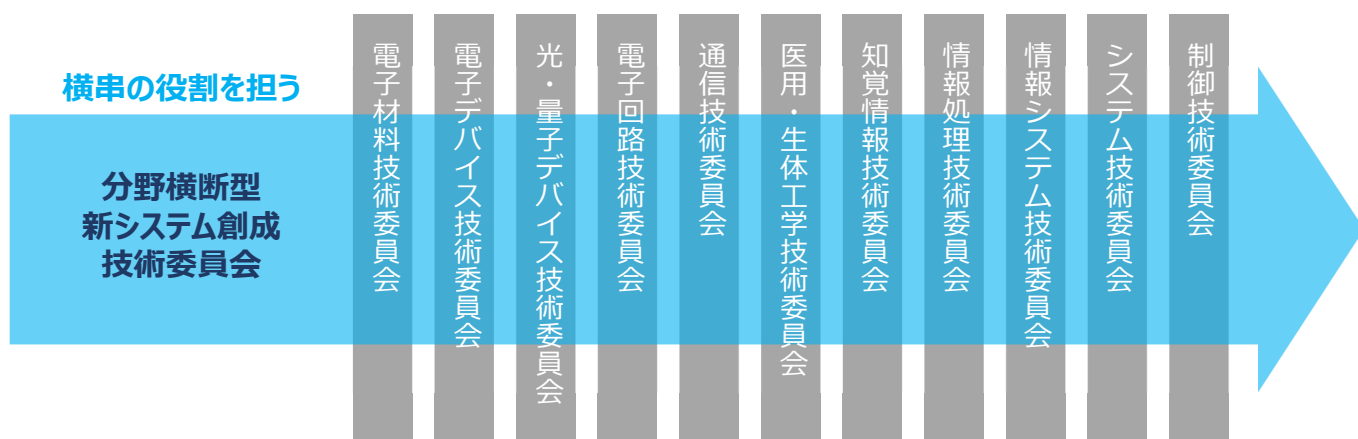
調査専門委員会の活動の詳細は右のQRコードからご確認ください。

お問い合わせ：制御技術委員会幹事 脇谷伸（広島大学）：wakitani@hiroshima-u.ac.jp





分野横断型新システム創成技術委員会 Transdisciplinary Systems Innovation



新たな価値を継続して創造する、未来のスマート社会の実現に向けて、C部門の技術委員会を横断する調査専門委員会による技術委員会活動の活性化、部門間連携に加え、他学会との連携強化による新分野の開拓と展開、電気学会のプレゼンス向上を図ることを目的にこれらの活動のハブとなる技術委員会



技術委員会の研究調査対象技術分野

1. 技術分野横断型の新システム領域の創出と創出のための調査研究
2. 新システムを創成するためのシステム・デザイン技術の研究とその応用技術、応用分野の調査研究
3. 他部門、他学会との連携による新システムの創成と普及のための研究

問い合わせ先: (株)東芝 馬場 賢二
Kenji2.baba@Toshiba.co.jp